

ランナー技術士が見た盛岡のインフラと人

三 澤 功 一（建設部門、総合技術監理部門）

昨年4月に盛岡市へ転勤してきて約1年が経ち、新型コロナウイルスのワードを見聞きしなかった日は無かったように思います。未だ収束が見えない中、エッセンシャルワーカーの業務継続性が求められているように、新型コロナウイルスの有無によらず着実に老朽化が進むインフラを適切に管理していくことが重要と考えています。

さて、私事ではありますが、約15年間にわたりランニングをしています。ことさら、この5年間においては、ほぼ毎朝走り続けてきました。天候の良し悪しによらず出かける私に妻は呆れ顔であることを付け加えておきます……。

この1年間、盛岡市で走り続けてきて感じたことは、下記の3点です。

- ・とにもかくにも寒い
- ・盛岡市内近傍に生活、交通および観光インフラが高い密度で形成されている
- ・地域の人々がそれらのインフラを大切にしている

寒いということは、人間の身体・体調に影響を及ぼしますが、インフラでも同様です。例えば、私たちが最も接する機会が多いと言っても過言ではない舗装路面にあっては、厳しい寒さに晒され、そして緩むという繰り返し作用によって大小の凹凸を発生させ、車の乗り心地が低下し、歩行者の転倒等のリスクを増大させる可能性があります。機械を用いた除雪作業が繰り返されると雪は排除されますが、それと同時に舗装表面が削られるなど自らの身体を痛めることになります。また、コンクリートにあっては、材料を形成する石が傷み、どんどん自らの身体を細めてしまいます。すなわち、寒いということは人間にとってもインフラにとっても非常に厳しい条

件となり得ることは間違いありません。

一方、都市インフラのみならず、多様なインフラが盛岡市内には形成されていて、飽きのこない素晴らしい環境と感じます。例えば、融雪歩道は町中にきめ細かく整備され、雫石川、北上川および中津川など河川に架かる橋はいくつもあります。そして、盛岡城跡、内丸など歴史的に価値のある素晴らしい観光インフラと町中の距離感も魅力と思います。

そして私が最も感銘を受けたのが、地域の人たちが持つインフラを大切にしようとする行動です。ランニングをしている時によく見かけるのが、団体活動、個人的活動などで、歩道のゴミ拾い、堤防の草刈り、橋の排水ますの清掃などを行っている人たちです。推測ですが、岩手内陸地域で多くの河川に囲まれている地域がゆえに人流・交流が地域経済に与える影響は計り知れず、だからこそインフラを大切にし、一定の敬意を払うということが自然にできていると感じます。前述した厳しい寒さに晒される過酷な条件下のインフラにとって、こうした活動は寿命を伸ばすことにつながる素晴らしいものと考えます。

このように盛岡でのランニングを通じて、近傍のインフラとそこに住む人たちを見て、私自身が適切に管理していくことの使命を益々強く感じた次第です。また、利用される人たちがインフラを大切にするという気持ち・具体的行動は、管理する立場としては大きな喜びであり、業務にあたる姿勢にも確実に良い刺激を与えてくれるものと確信します。私は、このような相互関係がきっと今後の維持管理の中で重要な概念になると考え、この地で業務に励んでいく所存です。